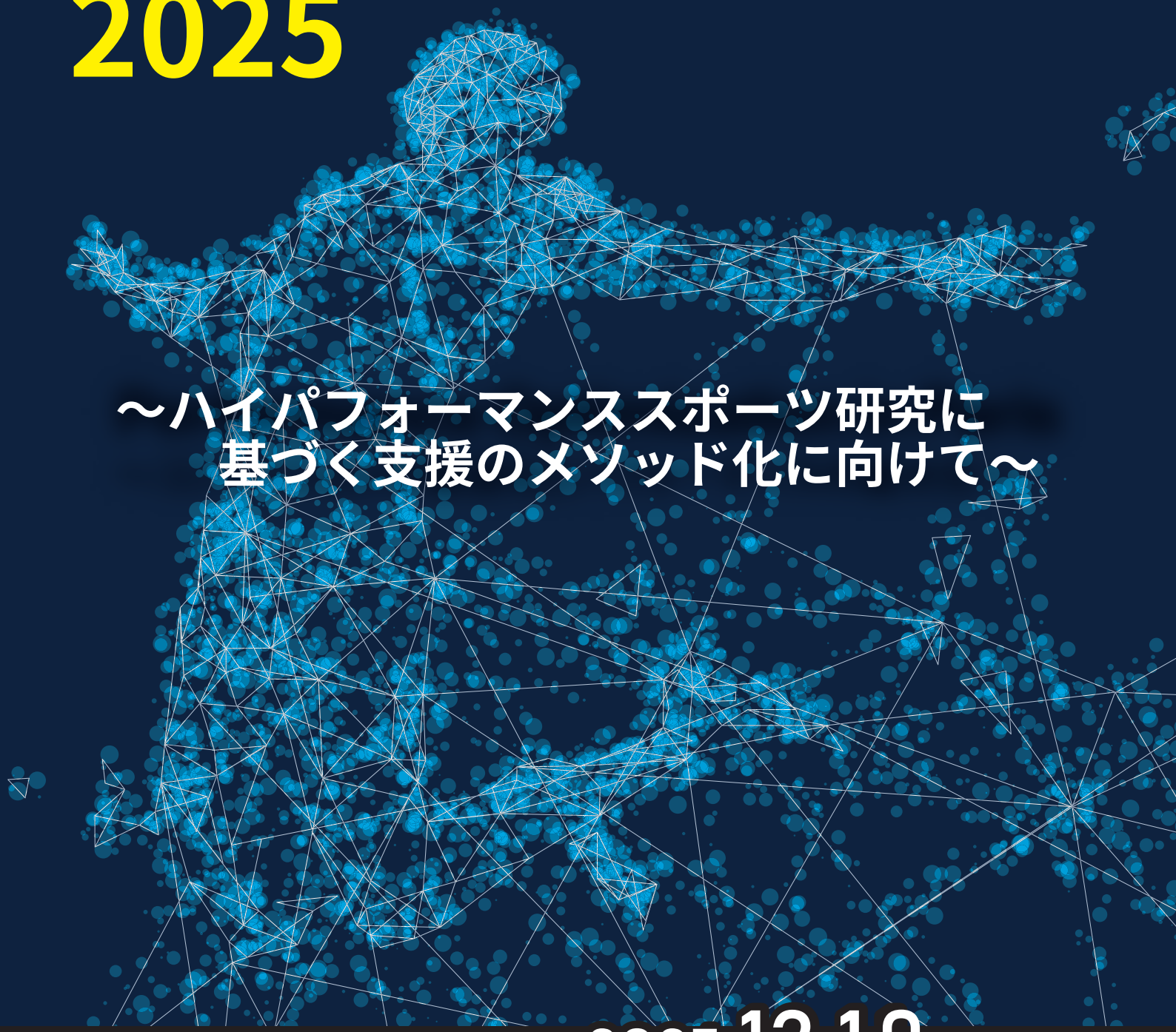
ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス 2025

High Performance Sport Conference 2025



～ハイパフォーマンススポーツ研究に基づく支援のメソッド化に向けて～

HPSC JAPAN HIGH PERFORMANCE SPORT CENTER

会場開催　2025.12.10 WED ～ 12.11 THU

会　場　ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）
味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）・ウエスト１階大研修室 他

JAPAN SPORT COUNCIL
日本スポーツ振興センター

ご挨拶



ハイパフォーマンススポーツセンター長
国立スポーツ科学センター所長
久木留 毅

この度、「ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス2025」を『ハイパフォーマンススポーツ研究に基づく支援のメソッド化に向けて』というテーマで開催いたします。

今回のカンファレンスでは、ハイパフォーマンススポーツ関係者、その中でも中心的な役割を担うハイパフォーマンスディレクター（HPD）、そしてHPDを目指す方々や支える皆様に向けて、その資質や役割について議論を深めていきます。

1日目（12/10）は、強化戦略プラン、アスリート育成パスウェイの構築、女性アスリート支援の各テーマでスポーツ医・科学の更なる活用について参加者を交えて検討していきます。また、「HPSCリカバリー機能見学ツアー」を実施し、HPSCのハイパフォーマンススポーツ研究に基づく支援メソッドの一つとして最新のリカバリー機能をご紹介します。

2日目（12/11）は、HPSCが推進するトータルコンディショニングをテーマにシンポジウムを開催します。「ハイパフォーマンススポーツ×宇宙」では、トップアスリートと宇宙飛行士が競技環境・極限環境で発揮するパフォーマンスに焦点を当て、その支援に関する共通点や新たな可能性を探索していきます。また、「ハイパフォーマンススポーツ×ハイパフォーマンススポーツ」では、ハイパフォーマンススポーツ領域間での知見共有を通じて、競技現場での好事例や知見の蓄積を目指していきます。

さらに、包括連携協定を締結している大学との連携による研究成果の共有や学生交流を通じ、HPSCが結節点となり、ハイパフォーマンススポーツ研究の発展と将来に向けた人材育成にも取り組みます。

HPSCが支援するアスリートやチームは、世界の中で戦っています。それを支えるスタッフも世界レベルでの競い合いに適応する必要があります。本カンファレンスでは、その取組の成果を是非ご覧いただければと思います。

最後に、本カンファレンスを開催するに当たり、ご協賛・ご協力いただいた方々や企業・団体様へ厚く御礼申し上げます。

以上

HPSCでは、１０年先を見据え、HPSC/JISSスタッフ全員でディスカッションを重ね、JISSでしかできない支援と研究を持続的に推進するプランとして、「JISSプラン 2034」を策定し、HPSCウェブサイトで公開しています。HPSCにとって、ハイパフォーマンス領域で得た知見を社会へ還元していくことは使命であり、存在意義、いわゆるパーパスでもあります。そのパーパスを常に意識し、HPSCが掲げる「ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ」を具現化し広く社会への還元に取り組み、2034年までに世界最高水準のスポーツ医・科学研究所となることをビジョンとしております。このプランを軸に、引き続きHPSCが蓄積してきたナレッジや新しい知見・技術を、科学的根拠に基づいた支援や更なる研究の推進につなげるために、ハイパフォーマンススポーツ関係者に対して、HPSCだからこそ実現できる情報発信をしていきます。

パーパス（存在意義）／ JISSプラン 2034

パーパス（存在意義）

～ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ～

HPSC は、ハイパフォーマンス領域で得た知見を社会へ還元していくことは使命であり、存在意義、いわゆるパーパスでもあります。そのパーパスを常に意識し、HPSC が掲げる「ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ」を具現化し広く社会への還元に取り組みます。



JISSプラン 2034

10 年先を見据え、HPSC ／ JISS スタッフ全員でディスカッションを重ね、JISS でしかできない支援と研究を持続的に推進するプランとして、「JISSプラン 2034」を策定しました。

▶ https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/Portals/0/resources/hpsc/Pamphlet/JISSPLAN_2034.pdf



協賛企業様

トップパートナー

FUJITSU

パートナー

Otsuka　株式会社協栄　aim SERVICES　NeuroSpace

Day1　12月10日（水）

オープニングセッション
A会場
12月10日(水)
13:00-14:00

「強化戦略プラン×スポーツ医・科学」

今年度のHPSCカンファレンスは競技団体の強化の司令塔となるHPDに焦点を当てる。ここでは、有用な科学的サポートに繋げるために、HPDやHPSCが強化戦略プラン・協働コンサルをどのように活用すべきかについて議論する。



尾崎　宏樹
HPSC/JISSスポーツ科学研究部門
副主任研究員

ファシリテーター



窪　康之
HPSC/JISS スポーツ科学研究部門
副主任研究員



飯塚　太郎
HPSCハイパフォーマンス戦略部
/JISS スポーツ科学研究部門 主任研究員

第１部
A会場
12月10日(水)
14:15-15:15

ハイパフォーマンスディレクターと考える
アスリート育成パスウェイの構築・活用

日本版FTEMを活用したスポーツクライミングとブラインドサッカーのパスウェイモデル構築事例を紹介。アスリート育成パスウェイ構築の背景、構築過程での課題と解決策を共有し、次世代アスリート育成の未来を考察する。



山下　修平
HPSCハイパフォーマンス戦略部
開発課 課長
/JISSスポーツ科学研究部門
副主任研究員

ファシリテーター



安井　博志
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会　ハイパフォーマンスディレクター
/スポーツクライミング日本代表
ヘッドコーチ



魚住　稿
特定非営利活動法人
日本ブラインドサッカー協会
ハイパフォーマンスディレクター

第１部
B会場
12月10日(水)
14:15-15:15

ハイパフォーマンスディレクターと考える
競技団体による「女性アスリート支援」

女性アスリートの健康課題に対し、独自の取り組みを進める競技団体が増えてきている。本セッションでは、日本水泳連盟の「Women’s Health Project for Japanese Swimmers」、日本パラ陸上競技連盟の「マルチサポートパート」の取り組みについてご紹介いただく。



能瀬　さやか
HPSC/JISS スポーツ医学研究部門
契約研究員・医師

ファシリテーター



柏木　由美子
HPSC/JISS スポーツ医学研究部門 契約職員・看護師



松浦　由生子
公益財団法人日本水泳連盟
医事委員



大森　典子
一般社団法人
日本パラ陸上競技連盟強化委員会
トレーナー

サブ会場
12月10日(水)
15:20-15:50

ポスターセッション①

HPSC 支援・研究アワード2024

2024年度、海外学術誌に筆頭査読付き論文を3本掲載した牧野瑞輝研究員が研究アワードを受賞。また「総合型サポート」において多領域や他事業との連携が機能したバドミントンサポートチームが支援アワードを受賞。それぞれの取り組み内容を発表する。

HPSC支援アワード2024

バドミントン (総合型サポート)
サポートチーム

HPSC研究アワード2024



牧野　瑞輝
HPSC/JISS スポーツ科学研究部門
契約研究員

第2部
A会場
12月10日(水)
16:00-17:30

国際競技力向上に資する研究開発
～先端的スポーツ医・科学研究推進事業における大学の取り組み～

本セッションでは、スポーツ庁「先端的スポーツ医・科学研究推進事業」を受託している3大学から、同事業で実施している、スポーツにおける「医学」、「情報」、「工学」に関する先端的な研究の成果を発表していただく。

厚底シューズが身体に及ぼす影響と障害予防に関する研究 ー前向きコーホート研究からの検討ー



岸本　康平
順天堂大学スポーツ健康科学部 助教
／医学部スポーツ医学研究室 研究補助員

最新技術を用いた動作解析・VRフィードバック・感情分析の取り組み



長野　明紀
立命館大学スポーツ健康科学部 教授

皮膚微小還流システムによる血中乳酸濃度評価法の開発と競技現場への実装



松井　崇
筑波大学体育系 准教授

第2部
B会場
12月10日(水)
16:00-17:30

ハイパフォーマンスディレクターのための
HPSCリカバリー機能見学ツアー

リカバリーはトータルコンディショニングの一部であり、科学的根拠に基づいたリカバリー手段の活用が求められています。本セッションでは、HPSCリカバリー機能見学ツアーを通して、各競技の特徴やトレーニング期分けを考慮したリカバリー戦略について考える。

※本セッションは、スポーツ庁委託事業「先端技術を活用したHPSC基盤強化事業」の一環として実施



衣笠　泰介
HPSC/JISSスポーツ科学研究部門
主任研究員



徳武　岳
HPSC/JISSスポーツ科学研究部門
契約研究員

Day2 12月11日（木）

午前の部
A会場
12月11日(水)
10:00-12:40

シンポジウム①
トータルコンディショニングのための知見共有
「ハイパフォーマンススポーツ×宇宙」

有人宇宙活動とハイパフォーマンススポーツにおけるコンディショニングの研究成果や実践例を共有する。ディスカッションでは、双方の共通点や相違点を明確化するとともに、今後の連携可能性や相互補完できる知見を探索・検討する。

イントロダクション/ファシリテーター



久木留　毅
HPSCセンター長/JISS所長

スポーツを通じて社会と世界の“善き未来”を創造する



室伏　広治
東京科学大学教授・副学長
（スポーツ科学担当）

宇宙飛行士の健康を支えるJAXA医療運用チームとその取組について ～各分野エキスパート間の連携とフライトサージャンの役割～



速水　聰
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙飛行士運用技術ユニット宇宙飛行士健康管理グループ
主任医長／フライトサージャン

有人宇宙活動におけるメンタルヘルスケア



笹原　信一朗
筑波大学医学医療系 生命医科学域 産業精神医学・宇宙医学教授

国際総合競技大会におけるトータルコンディショニング



半谷　美夏
HPSC/JISS スポーツ医学研究部門
主幹・主任研究員

サブ会場
12月11日(木)
12:50-14:05

12:50-13:50 ポスターセッション②
13:50-14:05 HPSC発特許紹介
「スポーツ映像解析を支える技術開発国立スポーツ科学センター発のカメラキャリブレーション手法」

特許紹介



松林　武生
HPSC/JISS スポーツ科学研究部門
副主任研究員

午後の部
A会場
12月11日(水)
14:20-16:45

シンポジウム②
トータルコンディショニングのための知見共有
「ハイパフォーマンススポーツ×ハイパフォーマンススポーツ」

本セッションでは、ラグビー・自転車・パラ陸上の各ハイパフォーマンスディレクター(HPD)から、トータルコンディショニングに関する取組を紹介してもらい、HPDが担うべき役割や体制、HPSCと連携して達成すべき課題について議論する。

イントロダクション



清水　和弘
HPSC/JISSスポーツ科学研究部門
副主任研究員



永友　洋司
公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
代表強化部 15人制男子日本代表チームディレクター



ミゲル・トーレス
公益財団法人日本自転車競技連盟
ハイパフォーマンスセンターオブジャパンサイクリング(HPCJC)
ディレクター



平松　竜司
一般社団法人日本パラ陸上競技連盟
ハイパフォーマンスディレクター
/東京大学大学院農学生命科学研究科
准教授

ファシリテーター



尾崎　宏樹
HPSC/JISS スポーツ科学研究部門
副主任研究員

**「アスリートのための
トータルコンディショニングガイドライン」**



アスリートのハイパフォーマンス発揮のための
コンディショニングの知見や実践方法等を
まとめた専門書

**「ハイパフォーマンスを発揮！
アスリートのための
トータルコンディショニングハンドブック」**



図やイラストを多数用いて、
コンパクトにわかりやすく解説

**Total Conditioning Research Project
情報発信サイト**

https://hpsc-totalconditioning.jpnsport.go.jp/

Journal of High Performance Sport (JHPS)



Journal of High Performance Sport(JHPS)は、ハイパフォーマンススポーツにおける競技力向上への医・科学的貢献を目指す研究雑誌です。その内容には、強化現場に直結する応用的・実践的なものから、将来活用の見込まれる研究までが含まれています。さらに、トップアスリートのような特異的な対象者に焦点を当てた実践研究やその特性を探究する研究、医・科学サポートに関する事例・症例の報告や研究資料も扱っています。

トップアスリートの競技力向上に関わる研究

JHPSは、「研究成果が国際競技大会で活躍するトップアスリートの競技力向上に貢献できるか」という点に関して、特に重視した学術誌であるということが他の学術誌との大きな違いとなっています。JHPSへの投稿は、トップアスリートがトレーニングを行うナショナルトレーニングセンターと支援・研究を一体となって行うJISSを有するHPSCだからこそ蓄積される知見もあるため、HPSCに所属している方を中心に、中央競技団体（NF）の医・科学スタッフである各大学の先生やその大学院生等にも多く投稿をいただいています。また、過去にJISSに所属していた方で大学に就職した方、NFの医・科学スタッフになった方などにもJHPSに投稿していただいています。

豊富な収録論文数

現在JHPSには2024年12月末時点で131本の論文が収録されており、JHPSの前身であるJAPANESE JOURNAL of ELITE SPORTS SUPPORTやSports Science in Elite Athlete Supportを含めると175本の論文を収録しています。現在のJHPSという研究雑誌となってからは、総説、原著論文、報告・資料の3つの論文種類から成り立つ通常号とHPSCが事業の一環として取り組んでいることや、ハイパフォーマンススポーツ分野におけるトレンド・トピックの紹介などを行う特集号という形で１年に２冊の発刊を行っています。

2022年は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関するサポート特集というテーマで、JSC村外サポート拠点、暑熱対策プロジェクト、自国開催大会の心理対策プロジェクトについて、特集号を発刊しております。また、JHPSの目的の一つでもある研究成果を更なるトップアスリートの競技力向上に幅広く活用してもらうため、HPSCの**ウェブサイト**においても公開することによって広く知見を還元していく取り組みを行っています。



通常盤 総説、原著論文、報告・資料の3つの論文種類。

特集号 ハイパフォーマンススポーツ分野におけるトレンド、トピックの紹介。

これからのJHPS

今後、JHPSがハイパフォーマンススポーツにおける競技力向上への医・科学的貢献を更に進めていくためには多くの研究の投稿がされること、また、多くの方に目にしてもらうことによってJHPSの価値を高めていくことが重要だと考えております。そのために、HPSCではJISSの研究員を中心としたJHPS編集委員会において、定期的に議論を行い、HPSCだからこそできる研究雑誌を目指しています。

JHPSをはじめ、HPSCが編集・監修している刊行物はこちらからご覧ください。

https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/about/publications/tabid/1294/Default.aspx